

麦の播種について

1. 土壌の酸度矯正

【酸度矯正】

好適pH=6.5~7.0

- ・麦は酸性を嫌う作物です。
- ・酸性土壌では必ず石灰で矯正してください。

(例:ケイ酸苦土石灰 100~120kg/10a)

2. 耕起・整地

あらかじめ10~15cm程度に耕起し、大きな土塊を作ります。さらに浅く耕して碎土をします。碎土が荒いと出芽率や除草剤の効果が低下します。圃場が良く乾いてから耕起・整地を行いましょう。

3. 排水対策

麦類は土壌湿潤害が発生しやすく、排水不良の土地では作付けしないのが原則です。圃場が過湿だと根が弱って養分の吸収が妨げられたり、赤かび病など病害が発生しやすくなります。排水対策は麦栽培の重要なポイントです。

- ・圃場の周囲に深さ20~30cmの溝(周囲溝)と圃場内に5~10m間隔で15~20cmの溝を設置します。
- ・排水不良の圃場では併せてサブソイラーによる弾丸暗渠も有効です。

4. 播種

【播種準備】

- ・播種量:10aあたり7~8kg(ドリル播き)、11~12kg(散播)
- ・種子消毒:斑葉病や黒穂病は種子伝染します。予防のために種子消毒を行いましょう。

【播種時期】

・早播きは茎立ちが早すぎて冬に幼穂が凍死するおそれがあります。また遅播きにすると生育が確保できない場合は出芽が遅れて生育不良となります。

[平野部] 11月10日~11月20日

[中山間部] 11月5日 ~11月15日

【施肥】

栽培暦や前作物を考慮して、施肥量を決めましょう。

[小麦](成分量 kg/10a)

	基肥	追肥	
		1月下旬～ 2月上旬	3月中旬
窒素	8～9	3	1～2
磷酸	12～13		
加里	8～9	4	

[大麦](成分量 kg/10a)

	基肥	追肥	
		1月下旬～ 2月上旬	3月上旬～下旬
窒素	5～6	2～3	2～3
磷酸	10～12		
加里	5～6	2～3	2～3

【播種】

- ・条間20～30cm、播種深度3cm程度に播種します。
- ・あまり深播き(5～6cm)にすると出芽が遅れます。

5. 除草剤

- ・既発生雑草が多い場合は、あらかじめ耕起の十数日前に茎葉処理剤を処理します。
- ・播種直後に土壌処理剤を散布し、その後の生育期処理とあわせて体系処理を行います。

(注意: 播種直後の土壌処理剤は、雑草種子の出芽抑制を行います。従って、雑草が目に見えるようになってから茎葉散布しても効果はありません)

[\(戻る\)](#)